

令和 6 年度 研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム（BRIDGE）の実施方針  
（令和 6 年度当初予算）

令和 6 年 3 月 21 日  
ガバニングボード決定

「科学技術イノベーション創造推進費に関する基本方針」（平成 26 年 5 月 23 日 総合科学技術・イノベーション会議決定（最終改正：令和 4 年 12 月 23 日））及び「研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム運用指針」（平成 29 年 5 月 25 日ガバニングボード決定（最終改定：令和 4 年 12 月 23 日））に基づき、令和 6 年度に継続して実施する重点課題またはシステム改革に資する事業、対象施策、対象施策への配分予算額、対象施策の実施期間を次のとおり定める。

なお、未配分額 35.4 億円については、重点課題またはシステム改革に資する事業への施策提案の審査・評価を踏まえた実施概要の具体化ができた段階での予算配分等の経費として留保する。

## 2. システム改革型

### （1）地域中核大学イノベーション創出環境強化事業

#### 配分額：8.0 億円

「研究開発と Society5.0 との橋渡しプログラム運用指針」に基づき、地域中核大学イノベーション創出環境強化事業の令和 4 年度採択大学及び令和 5 年度採択大学への令和 6 年 4 月の配分額を次のとおり定める。

令和 5 年度採択大学（令和 5 年度～令和 6 年度）

大学名	令和 6 年 4 月 配分額（億円）	参考）令和 5 年 配分額（億円）
大阪公立大学	0.6	2.0
長崎大学	0.6	2.0
兵庫県立大学	0.6	2.0
九州工業大学	0.6	1.5
山形大学	0.6	1.5
香川大学	0.6	1.0
鹿児島大学	0.6	1.0
千葉大学	0.6	1.0
長岡技術科学大学	0.6	1.0
立命館大学	0.6	1.0

計 10 大学（令和 6 年 4 月配分総額 6.0 億円）

配分額順かつ五十音順

令和4年度採択大学（令和4年度～令和6年度）<sup>1</sup>

大学名	令和6年4月 配分額（億円）	参考）令和4年 配分額（億円）	参考）令和5年 配分額（億円）
富山大学	1.0	1.5	1.0
弘前大学	1.0	1.5	1.0

計2大学（令和6年4月配分総額2.0億円）

五十音順

---

<sup>1</sup> 令和4年度公募要領で「支援期間は原則2年間とするが、実績状況に応じて1年延長もあり得る。」としている。

令和6年度 研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム (BRIDGE) の実施方針

(令和6年度当初予算)

令和6年3月21日  
ガバニングボード決定

「科学技術イノベーション創造推進費に関する基本方針」(平成26年5月23日 総合科学技術・イノベーション会議決定(最終改正:令和4年12月23日))及び「研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム運用指針」(平成29年5月25日ガバニングボード決定(最終改正:令和4年12月23日))に基づき、令和6年度に継続して実施する重点課題またはシステム改革に資する事業、対象施策、対象施策への配分予算額、対象施策の実施期間を次のとおり定める。

なお、未配分額 35.4 億円については、重点課題またはシステム改革に資する事業への施策提案の審査・評価を踏まえた実施概要の具体化ができた段階での予算配分等の経費として留保する。

**(2) 新 SBIR 制度加速事業**

**配分額: 2.8 億円**

対象施策	概要	府省庁名	配分額 (億円) (注)	実施期間
大学発新産業創出プログラム(START)プロジェクト推進型(SBIR フェーズ1支援)	社会ニーズ・政策課題に基づく研究者向けの研究開発課題をスタートアップ等に適した形で設定する。フィージビリティ・スタディ段階から、幅広く支援を開始、ステージゲートを通して、事業化・成長可能性の高い研究開発シーズを選抜し、連続的に支援を実施する。	文部科学省	0.2	令和6年度
研究開発型スタートアップの起業・経営人材確保等支援事業(SBIR 推進プログラム)	社会ニーズ・政策課題に基づく企業向けの研究開発課題をスタートアップ等に適した形で設定する。フィージビリティ・スタディ段階から、幅広く支援を開始、ステージゲートを通して、事業化・成長可能性の高い研究開発シーズを選抜し、連続的に支援を実施する。	経済産業省	2.5	令和6年度
交通運輸技術開発推進制度(SBIR 省庁連携型)	社会ニーズ・政策課題に基づき設定された交通運輸技術のポテンシャル維持・向上に資するトピックを元にフェーズ1による支援を受けた研究開発を、ステージゲートを通して社会実装性などの観点から選抜し、連続的に支援を実施する。	国土交通省	0.1	【2年目施策】 令和5年度 ～ 令和6年度

(注) 令和6年度の配分額、各年度の配分額は、審査を経て決定。

(※1) 「科学技術イノベーション創造推進費に関する基本方針」(平成26年5月23日 総合科学技術・イノベーション会議決定(最終改正:令和4年12月23日))に基づき、上記配分額とは別に、BRIDGEの実施にあたって必要となる外部有識者等に係る経費、ガバニングボード、プログラム統括チーム及び評価委員による委員会の運営に係る経費、プログラムの横断的な運営に係る共通基盤経費、機動的な調査に係る経費等を事務局運営経費として、3.41億円充当する。

(※2) 上記の重点課題またはシステム改革に資する事業への配分額及び事務局運営経費は政府予算成立をもって確定し、それぞれ各省庁等及び内閣府に配分する。

## 令和5年度採択 新SBIR制度加速事業（フェーズ2） 2年目の配分方法

第85回ガバニングボード資料  
(令和4年6月23日)

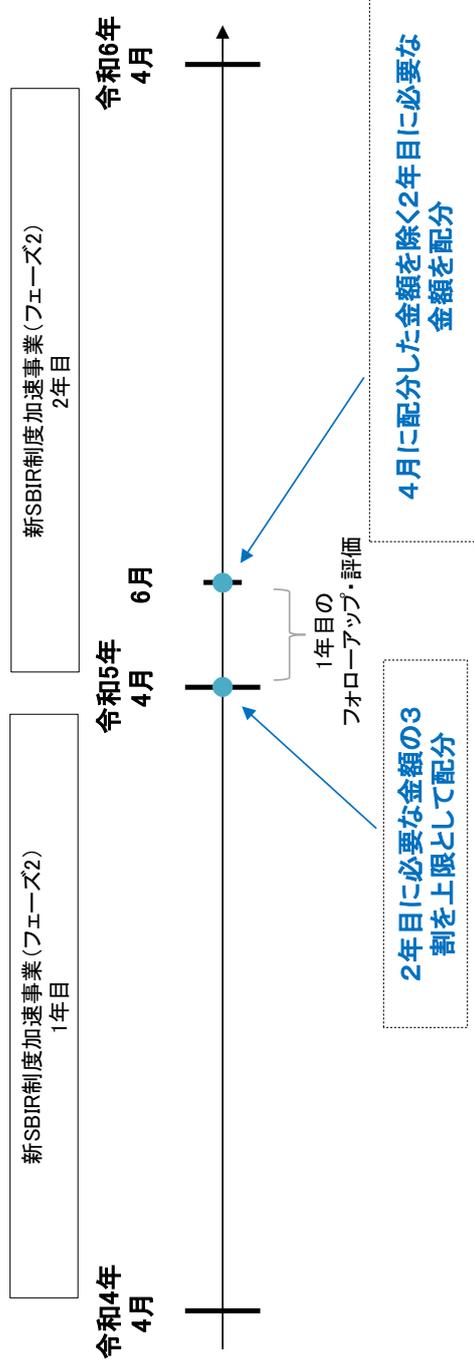
○ 官民研究開発投資拡大プログラム運用指針（ガバニングボード決定（平成29年5月25日））に基づき、新SBIR制度加速事業は、フォローアップ・評価を行った上で予算の配分額を決定するため、次年度の予算は、来年6月に配分する予定。

※令和3年度新SBIR制度加速事業の予算は、令和3年6月30日に移し替えを実施。

○ 一方で、新SBIR制度加速事業のうちフェーズ2事業は、1～2年程度の事業期間で実施するため、継続した予算措置が必要となる。

○ 令和4年度に採択された新SBIR制度加速事業（フェーズ2）の2年目の予算については、以下の配分方法とする。

- 令和5年4月 2年目に必要な金額の3割を上限として、フォローアップ・評価に先行して必要な金額を配分
- 令和5年4～5月 審査・評価委員会において、1年目のフォローアップ・評価を実施
- 令和5年6月 フォローアップ・評価の結果を考慮し、4月に配分した金額を除く2年目に必要な金額を配分



# 令和6年度フェーズ1 連結トピック一覧

No.	ニーズ元	フェーズ1	フェーズ2	タイトル
1	総務	文科	総務	Beyond 5G（6G）に向けた研究開発
2	厚労	文科・経産	厚労	多様化する障害像を踏まえた汎用性のある自立支援機器の開発
3	農水	経産	農水	食品産業（製造・外食・中食等）の生産性向上に資するスマート技術の開発
4	農水	文科・経産	農水	木質バイオマスを活用した新素材・原料の研究開発（エネルギー利用は除く）
5	農水	文科・経産	農水	林業の安全性向上・労働負荷軽減・生産性向上に資する技術の研究開発
6	国交	文科・経産	国交	波浪観測情報の取得手法の高度化・低コスト化
7	国交 (福岡市)	文科・経産	国交	海洋・港湾・湖沼等における効率的な測深作業の実現
8	環境	文科・経産	環境	自然環境のモニタリング技術や生態系解析技術の開発
9	法務	経産	経産	矯正施設における異常行動とその予兆をAI等で検出する技術の研究開発
10	警察	文科・経産	経産	災害時に生き埋めになった生存者を迅速に捜索するセンシング技術やロボティクス技術の開発
11	警察	文科・経産	経産	災害時等に水中での行方不明者等を迅速に捜索する技術の開発
12	内閣府 (京都府)	経産	農水	低農薬・無農薬でねぎの種苗改良や病害（ねぎべと病等）対策を行う技術の研究開発
13	内閣府 (京都府)	経産	農水	効率的な畦畔の雑草の発生抑制や除草に関する技術開発

# 令和6年度フェーズ2 連結トピック一覧

## 【1年目】

No.	ニーズ元	フェーズ1	フェーズ2	タイトル
1	厚労	文科・経産	厚労	多様化する障害像を踏まえた汎用性のある自立支援機器の開発
2	農水	文科・経産	農水	食品産業の生産力強化に資するスマート研究開発
3	国交	文科・経産	国交	造船所の生産性向上に関する研究開発
4	国交	経産	国交	IoT等の活用による内航近代化に係る研究開発
5	経産	経産	農水	加工食品の輸出促進のための賞味期限延長等の技術の開発
6	法務	経産	経産	仮想空間において現実空間と同等以上の技術習得が可能となる職業訓練を実現するための技術開発

## 【2年目】

No.	ニーズ元	フェーズ1	フェーズ2	タイトル
1	厚労	文科・経産	厚労	多様化する障害像を踏まえた汎用性のある自立支援機器の開発
2	農水	経産・文科	農水	農林漁業者の高齢化や担い手不足の解消に資する自動化・省力化、生産技術の効率化
3	農水	経産・文科	農水	農林水産物の環境配慮、循環型の生産体系実現の可能性拡大に資する技術開発
4	国交	経産・文科	国交	IoT等の活用による内航近代化に係る研究開発
5	国交	経産・文科	国交	造船所の生産性向上に関する研究開発

令和6年度 研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム (BRIDGE) の実施方針  
(令和5年度補正予算)

令和6年3月21日  
ガバニングボード決定

「科学技術イノベーション創造推進費に関する基本方針」(平成26年5月23日 総合科学技術・イノベーション会議決定(最終改正:令和4年12月23日))及び「研究開発と Society 5.0 との橋渡しプログラム運用指針」(平成29年5月25日ガバニングボード決定(最終改正:令和4年12月23日))に基づき、令和6年度に実施する、令和5年度補正予算を繰り越したシステム改革に資する事業、対象施策、対象施策への配分予算額、対象施策の実施期間を次のとおり定める。

### システム改革型

#### スタートアップ・エコシステム形成推進事業

配分額: 25.3 億円

対象施策	概要	府省庁名	配分額(億円)	実施期間
グローバル・スタートアップ・アクセラレーションプログラム	スタートアップの創出を促進する拠点都市(※)に対して、国内スタートアップの海外展開に向けた支援や拠点都市の自治体や大学が海外都市や大学等と連携を強化するための取組を支援することにより、スタートアップ・エコシステム拠点都市の機能を強化する。  (※) 内閣府が実施する「Beyond Limits. Unlock Our Potential. 世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略」に係るスタートアップ・エコシステム拠点都市。グローバル拠点都市4拠点(東京圏、名古屋・浜松、関西圏、福岡)及び推進拠点都市4拠点(札幌、仙台、広島、北九州)。	経済産業省	19.1	令和6年度
グローバル・スタートアップ・キャンパス構想の推進	グローバル・スタートアップ・キャンパス構想(※)の実現に向け、海外大学等との継続的な連携や、国内外の研究・イノベーション創出に関する先進的な動向等の調査を実施することで、構想の具体化を図る。	内閣府	6.2	令和6年度

	<p>(※) ディープテック分野に特化した研究機能と国際標準のイノベーション機能を兼ね備えた施設である「グローバル・スタートアップ・キャンパス」を東京都心（渋谷・目黒）に創設することを通じ、世界に比肩するスタートアップ・エコシステムを日本に作り上げる構想。</p>			
--	--	--	--	--